

ドイツ人の見方・考え方

—— シュタイナー学校へのアンケートを通して ——

前ハンブルグ日本人学校 校長

長崎県諫早市立喜々津小学校 校長 金井 浩一

キーワード：在外教育施設、ドイツ、ハンブルグ、シュタイナー学校、アンケート、見方・考え方

1. はじめに

教員になってからの目標であった在外教育施設での勤務が叶い、ドイツ・ハンブルグ日本人学校で4年間を過ごした。地元のシュタイナー学校との交流活動を長年行っている学校である。交流相手のシュタイナー学校には日本人教師が勤めており、交流内容等のやり取りがスムーズにできる環境があった。そこで、主に日本との関わりがある事柄について、ドイツ人がどのような見方や考え方を持っているのかを知るため、シュタイナー学校の教師と生徒にアンケートを実施した。紙面の関係で、アンケート集計結果と考察の一部を紹介する。

2. アンケート

(1) 対象：シュタイナー学校の教師（12名）

生徒（10年生：37名、11年生：34名） 計 83名

(2) 実施年月：平成29（2017）年11月

3. アンケートの集計結果と考察

(1) ドイツの労働時間は日本よりも短い（日本は残業時間が多い）のに、経済が好調です。

あなたが考えるその要因を簡潔に書いてください。

※2015年 一人当たり平均年間総実労働時間：日本＝1719時間、ドイツ＝1371時間

（出典：独立行政法人 労働政策研究・研修機構）

① 〈教師〉12名（複数回答）

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------|
| 1 ドイツはEUのメンバー（中心）なので有利、ヨーロッパの中心（3名） | |
| 2 わからない、何とも言えない、複雑すぎるので答えられない（3名） | |
| 3 ドイツ人は効率的に働く（2名） | 4 労働災害防止対策の実施（2名） |
| 5 ドイツは輸出の量が多い（以下1名） | 6 ワークライフバランスの違い |
| 7 ドイツ人の収入は市場の物価にふさわしい | 8 ドイツ国内の需要が高い |
| 9 ドイツ人は仕事終了まで他のことをしない | 10 第二次世界大戦の世代がよく働いたことによる |
| 11 日本はプレッシャーをかけすぎるので、ストレスが増し創造力が低下する | |
| 12 オートメーション化が進んだこと | 13 ドイツと日本の歴史が異なる |
| 14 残業をしない | 15 税金の関係 |

〈考察〉

私はドイツに着任して、様々なカルチャーショックを受けた。その中の1つが、勤務態度や勤務時間に関することである。組織としてではなく、対応した人によって要件への対応が変わる。例えば、VISAの取得のために手続きに出かけると、窓口の職員によって対応が異なり、非常に困らされた。自動車販売会社に勤務終了20分前に行ったら、「もっと時間に余裕をもって来店せよ」と追い返される。平気で、朝の通勤ラッシュ時に

ゴミ収集車が作業をしている、などだ。

昨今、日本では学校がブラック企業の最たる存在である、という報道がなされている。ハンブルグ日本人学校もその例に漏れず、夜の7時・8時まで残業することは日常茶飯事であった。この設問内容は、そんな日本人教師の「働き方改革」に関して、何らかの示唆をもらえるのではないかと、という思いもあり設定した。

この設問は、複雑な要因が絡む経済的内容なので、当然明確な事由は明らかになることはないが、はっきりとわかったことは、ドイツ人は公私を明確に区別しているということである。日本には「教師は土日も教師である」という言葉がある。その言葉の趣意は理解できるが、学校がいろいろなことを背負い込む今の制度を、根本から見直すことが肝要であることを強く感じた。

② 〈生徒〉10年生：37名、11年生：34名 計71名（複数回答）

- 1 ドイツ人の収入・時給が高い、最低賃金制度、最低賃金が高い、経済制度の違い（19名）
- 2 何とも言えない、わからない（14名）
- 3 ドイツ人は必要以上に働く事を好まない、効率を大切にす、集中する（11名）
- 4 日本はプレッシャーが多くドイツは少ない、精神的な元気が大切（9名）
- 5 仕事以外のことも人生では大事、家族や友達との時間が大事（8名）
- 6 ドイツは労働条件が良い、先人の努力、少年労働がない（8名）
- 7 仕事の種類が多くある、無職が少ない（6名）
- 8 労働災害防止対策の実施、労働条件（6名）
- 9 EU・ユーロのおかげ、有利、経済が強い（6名）
- 10 ドイツの仕事は楽しい、満足感がある（3名）
- 11 バランスの良い教育、専門的な教育のおかげ（3名）
- 12 税金と税金に関する法律のおかげ（3名）
- 13 ドイツは国家による支援が充実（3名）
- 14 日本は仕事をやり過ぎる、仕事に集中し過ぎ（3名）
- 15 ドイツは政策が良い（2名）
- 16 ドイツは時間がゆっくりと流れる（2名）
- 17 ドイツ製品は他国で安く売られている、ドイツは輸出品が多い（2名）
- 18 ドイツの製品は質が高い、ビール、車、sauerkraut（2名）
- 19 その他1名 11件

〈考察〉

2014年の一人当たりの国民所得は、日本：約27000ドル、ドイツ：約35000ドルである。2012年に両者が逆転しており、短期間で大きく差がついている。また、2015年の最低賃金は、日本：798円、ドイツ：8,5ユーロ（約1100円）と生徒が回答している通りである。このことが設問に直結しているかどうかは不明だが、以下の回答には衝撃を受けた。「仕事以外のことも人生では大事」「家族や友達との時間が大事」「精神的な元気が大切」……。日本人の大人の多くが認識していることだが、すでにドイツの高校生がこのようなことを考えているのだ。

同様のアンケートを同学校の12・13年生にも実施した（紙面の都合で省略）。その回答からは、10・11年生以上に、成熟した考え方が見て取れた。「人生への考え方の相違、人間は機械よりも尊い」などがそうである。また、「国家による支援の充実」が学生（10・11年生も）の側から回答されたことは素晴らしいと思う。果たして、同年齢の日本人の生徒から、このような意見が聞かれるであろうか。

(2) 日本の印象を簡潔に書いてください。

① 〈教師〉12名（複数回答）

- 1 まじめで勤勉（4名）
- 2 制度・規律（守られている、重んじる、多い）（4名）
- 3 ていねい（3名）
- 4 魅力的（3名）
- 5 伝統がある、伝統を重んじる（3名）
- 6 街がきれい（2名）
- 7 狭いところに住んでいる（2名）
- 8 皆がしっかりしている（2名）

- 9 精神性豊か（以下1名） 10 日本の歴史（特に鎖国）は見事
 11 シュタイナー学校で太鼓を披露する生徒はいつも好印象 12 おとなしい
 13 家族が大事 14 素晴らしい国 15 とても親切 16 寿司がすごく好き
 17 休暇が少ない 18 献身的 19 写真を撮ることが好き 20 自由・闊達がありません
 21 人の気持ちが優先されない 22 西洋の価値観やライフスタイルを取り入れている
 23 ハイテクノロジー 24 日本語は読めない 25 地震 26 学力へのプレッシャーが強い

〈考 察〉

私が、渡独前にドイツのイメージを尋ねられたら、おそらくここまでの回答はできなかったと思う。ドイツ人は、日本から遠く離れた国に暮らしているにも関わらず、このような回答ができることに驚かされた。回答からは、おおむねシュタイナー学校の教師は、日本人に対して好感を持っていることがわかる。特に、日本人の性格（まじめで勤勉、しっかりしている）に関する回答は嬉しいものだ。また、「規律や規則を重んじる・守る」という印象については、もしかしてマイナスイメージの印象かもしれないが、私は日本人として、決して悪い気はしていない。

ただ、「人の気持ちが優先されない、地震、学力へのプレッシャーが強い」という印象は、あまりありがたくないものだ。他国の大人（特に教師）が持つ印象は、子どもに受け継がれるので、さらに良い印象を持たれるように、日本人は精進しなくてはならない。

② 〈生徒〉10年生：37名、11年生：34名 計71名（複数回答）

- 1 まじめ、ていねい、賢い、親切、謙虚、しっかり者、努力家、働き者、愛想が良い（29名）
 2 教育へのプレッシャー、授業が厳しい、教育制度が厳しい、ハイレベル（29名）
 3 人口が多い、都市が過密状態、狭い、人口密度が高い（16名）
 4 素敵な国、美しい国、素敵な文化、伝統的な文化、田舎がきれい、豊かな歴史（12名）
 5 空気が良くない、工場が多い、環境汚染（11名）
 6 近代的、ハイテクノロジー、すごいトイレット（8名）
 7 校則・制度が多い、規則が厳しい（8名） 8 寿司（8名）
 9 食べ物が美味しい、健康的、食事の習慣が異なる、食が大切（7名）
 10 特にない、わからない（6名） 11 野心的、出世が大事、志が高い（5名）
 12 学校の拘束時間が長い、学生の自由な時間が少ない（4名）
 13 労働時間が長い、労働条件が悪い（3名） 14 経済大国（3名）
 15 器用、折り紙（2名） 16 漢字（2名）
 17 教師は全体の前で話し、学生個人とのやり取りをあまりしない（2名）
 18 鯨を捕る（2名） 19 東京（2名） 20 旅行、いつか旅行したい（2名） 21 その他1名 25件

〈考 察〉

外国人の子どもが持つ日本への印象の実際は、非常に興味深い結果である。特に、No.1とNo.2は同数であり、たいていのドイツ人の高校生が持っている印象として受け取ることができるだろう。この印象が、日本人学校との交流過程で醸成されたものだけではないことは明らかだが、様々な情報からこのような印象を持つに至ったのであろう。意外にも、「アニメや漫画」といった、今の日本を象徴するような回答はごく少数であった。No.1・4・6のようなプラスイメージも多いが、No.2・3・5・7のようなマイナスイメージを持たれていることは残念である。

全体的に、マイナスイメージの回答が約半数を占めているので、私たち日本人は、もっとプラスイメージを持ってもらえるように、環境政策や教育改革を進めていかなければならないと感じた。

4. おわりに

今回、シュタイナー学校の教師と生徒へのアンケートと、シュタイナー学校に勤務する日本人教師にインタビュー（紙面の関係で省略）を実施し、多くの成果が得られた。最も驚いたことは、13年生はもちろんであるが、日本の高校1年生にあたる10年生ですら、学校・仲間・家族・社会・仕事等を深く捉え、すでに自分なりの考え方を持っていることがわかったことである。

シュタイナー学校には、校長がいないことなど驚くこともあったが、保護者からのクレームや子ども同士のいじめがあることなど、日本と同様の事案で困っていることもわかった。ただ、日本人とドイツ人とは、勤労に対する考え方が大きく異なることを再認識した。日本人教師は、労働者というよりも教育者という意識が強く、ドイツ人教師は大前提として、まず労働者であるという意識が強いように思えた。労働者であることに変わりはないが、日本人学校も日本の学校も、学校が全ての教育を背負い込むのではなく、家庭教育や社会教育と棲み分けて、真に「働き方改革」に取り組む必要性を感じた。

また、シュタイナー学校の子どもたちの様子やアンケートから感じたことは、日本人学校の生徒よりも思考力・表現力が優っているのではないかと、ということである。日本人学校の生徒は、これまでに勤務した日本の学校の子どもよりも思考力・表現力が優っている、と感じていたが、それは単に比較的優秀な子どもが揃っているという要因が大きいように思う。ドイツ（他の現地校も含む）の学校では、子どもに意見を求める（討論する）機会が多い。教師の考え方や常識のみにとらわれず、「あなたはどう思う？」という問いを常に投げかけている。

日本は、新学習指導要領への移行の真っ只中である。「アクティブラーニング」「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」「学びに向かう姿勢」などのキーワードで方向性が示されている。大切なことは、私たち教員がその趣旨を正しく理解し、授業改善に真に取り組むことである。

世界は広くて狭い。ドイツ人は一部の高齢者等を除き、ほとんどがバイリンガルで、ドイツ語と英語を操る。トリリンガルも珍しくない。島国に暮らす日本人は、日本語だけでも十分という時代は過ぎ去り、近い将来英語が話せて当然、という時代が到来するであろう。世界から置いて行かれないよう、その時まで「語学力」「自己決定力」「思考力」「表現力」等の育成は急務である。



ハンブルグ日本人学校とシュタイナー学校の生徒



和太鼓を披露するハンブルグ日本人学校の生徒